

初等中等教育段階における取組

- 中学校・高等学校において保健教育の一環として感染症対策や医薬品を正しく使用する必要性に関する教育を推進。
 - ✓ 新学習指導要領(中学校:平成29年3月告示、高等学校:平成30年3月告示)において、引き続き、感染症対策及び医薬品の適正使用について記載。
 - ✓ 中学生及び高校生に対して配布している、健康課題について総合的に解説した啓発教材の中で、感染症及び医薬品の適正使用などについて記載。
 - ※ 小学校では、「健康な生活、体の発育・発達、心の健康、けがの防止、病気の予防」についての基礎的・基本的な内容を指導することとしており、これらの内容を基礎として、中学校以降で感染症対策や医薬品の適正使用に関する内容を指導することとしている。

高等教育段階における取組

- 各大学がカリキュラムを策定する際の参考となるよう、医学生・歯学生・獣医学生が卒業までに身につけておくべき必須の実践的能力の学習目標を提示した「医学教育モデル・コア・カリキュラム」、「歯学教育モデル・コア・カリキュラム」、「獣医学教育モデル・コア・カリキュラム」において、「薬剤耐性に対する理解」及び「抗菌薬の適正使用」に関する学修目標を記載。
- 大学医学部関係者等が集まる会議の場で、各大学医学部のカリキュラムにおいて「薬剤耐性対策」を含めた感染症に関する教育を充実させるよう要請。

文部科学省としての広報活動

- 教育関係者等に対し発信を行うメールマガジンサービスにおいて薬剤耐性対策の取組を掲載。

- アジア・アフリカの海外研究拠点を活用した感染症の疫学研究や、若手研究者が行う革新的な医薬品の創出につながる感染症の基礎研究を支援。
この中で、薬剤耐性菌に係る研究開発を推進。

研究事例

- ✓ 「感染症研究国際展開戦略プログラム」において、大阪大学(タイ拠点)や北海道大学(ザンビア拠点)の海外研究拠点で、特定の耐性菌を迅速簡便に検出する方法の開発や多剤耐性菌に対する治療薬候補物質を探索。
- ✓ 「感染症研究革新イニシアティブ」において、特定の薬剤耐性菌を選択的に殺菌するバクテリオファージを利用した新規治療法の開発を支援。

引き続き、感染症対策及び医薬品の適正使用に関する基礎知識を習得できるよう保健教育を推進するとともに、薬剤耐性菌に係る研究開発を支援する。